

1 教育目標

【教育理念】

自立・公共・共生・創造

【教育目標】

自ら考え、思いやりをもって行動する子どもの育成

【育てたい子ども像】

確かな学力（知）	進んで学ぶ子
豊かな心（徳）	明るく思いやりのある子
健康な体（体）	楽しく運動する子

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 研究主題

「学びたい」を引き出す授業づくり

ー児童が自ら選んだり決めたりする学習を取り入れてー

(2) 研究主題について

本校児童は、決められたり指示されたりしたことには真面目に取り組むことができる。しかし、学習に対して受け身的であり、自ら考えたり、新たなことに進んで取り組んだりすることを苦手とする児童もいると考える。

一方、現行学習指導要領では、児童生徒に目指す資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を推進していくことが示されている。また、一人一人の興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められている。

他方、本市の学びの基本的な考えとなる「ナゴヤ学びのコンパス」では、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」子どもの姿を目指すため、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「夢中で探究する」等の学びを重視し、「子ども中心の学び」大切にしていけることが示されている。

これらのことを踏まえ、一昨年度より、『学びたい』を引き出す授業づくりー児童が自ら選んだり決めたりする学習を取り入れてーをテーマとして実践を重ねてきた。その結果、「できるようになりたい」「調べてみたい」「考えてみたい」などと意欲的に学習に取り組む姿が多く見られるようになってきた。その一方、児童が自ら選んだり決めたりする学習場面が限られていたり、単元全体を見通した計画が不十分のために児童の学習意欲が停滞したりする様子が見られることもあった。そのため、児童の学習意欲をより引き出し、継続させるためには、児童が自ら選んだり決めたりする学習場面、いわば「子ども中心の学び」を多く取り入れていくこと、また、単元全体を見通した学習・支援計画をしていくことが必要であると考えた。

以上のことから、児童が自ら選んだり決めたりする学習場面を設定し、「学びたい」といった学習意欲を引き出し、児童中心の授業実践に取り組んでいく。

(3) 研究の方法

学年部会で各実践の事前検討会、授業参観、事後検討会を行い、手だての有効性や課題について検討し、今後の授業につなげる。また、家庭学習について随時検討する。

ア 授業実践

(ア) 導入場面で学習意欲を引き出す

各単元や授業、活動の導入場面において、児童の「学びたい」という学習意欲を引き出すための手だてを講じて実践をする

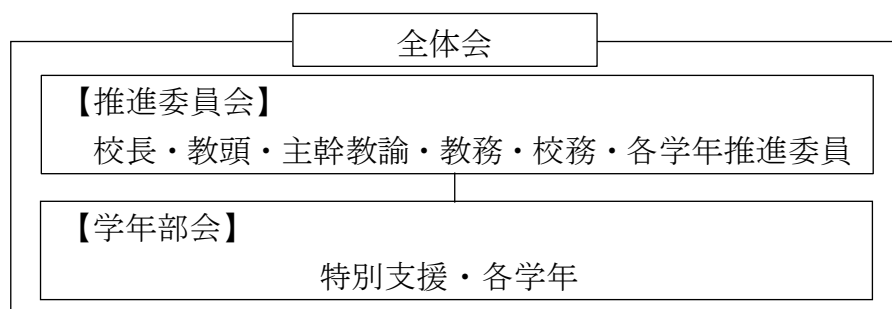
(イ) 児童が自ら選んだり決めたりする学習場面を設定する

各単元や授業の中で、児童の興味・関心等に応じて、学習課題や学習順序、学習する進度・量、学習方法等を自ら選んだり決めたりする学習を取り入れて実践をする。

イ 家庭学習

学習課題や学習順序、学習する進度・量、学習方法等を、児童自ら選んだり決めたりして家庭学習に取り組むことができるようにする。

(4) 研究組織



(5) 研究計画

月・日	内 容
4・11	推進委員会（推進計画案の検討）
～4・15	各学年で実践内容・方法について検討
4・16	全体会（推進計画案の検討）
4・25	学校だよりで本年度の努力点の主題と推進計画、実践内容の説明
5月～	各授業（事前検討会・授業の参観・事後検討会） 5～1月のいずれかの学年だよりで原稿作成（全授業実践の紹介）
9・18	授業研究（代表） 事前検討会
9・25	代表授業および授業研究（代表） 事後検討会
11・12、13	努力点授業参観
12・18	努力点推進委員会（最終報告書について）
1・23	各学年の最終報告書提出
2・5	最終報告会
2・25	学校だよりで1年間の成果と課題を説明
3・5	努力点推進委員会（次年度に向けて）
3月	来年度の計画案作成